



Card Seek ブロマガ(Vol.11)

2012 年 6 月 15 日 号

「 わ が 母 の 記 」

小 河 俊 紀

映 画 「 わ が 母 の 記 」

4 月 28 日 に 公 開 さ れ た 邦
画 「 わ が 母 の 記 」 を 観 た 。



井 上 靖 の 自 伝 的 小 説 「 わ が 母 の 記 」 3 部 作
を 映 画 化 し た も の で 、 役 所 広 司 ・ 樹 木 希 林 と
い う 演 技 派 俳 優 が 渋 く 熱 演 し 、 と て も 泣 け た 。
モ ン ト リ オ ー ル 世 界 映 画 祭 で 審 査 員 特 別 グ
ラ ン プ リ を 受 賞 し た 理 由 が よ く 理 解 で き る 。
長 い 時 間 の 熟 成 の 中 で し か 伝 わ ら な い 家 族 愛
と い う も の が あ る 、 と 。

私 の 母

私 を 産 ん で く れ た 母 は 、 ち ょ う ど 8 年 前 の
今 日 「 2 0 0 4 年 6 月 1 5 日 」 に 亡 く な っ た 。
9 2 歳 の 大 往 生 だ っ た 。
就 職 と と も に 私 は 故 郷 富 山 を 離 れ た か ら 、
そ れ ま で 3 2 年 間 も の 間 、 一 緒 に 暮 ら し た こ

とがない。せいぜい、正月かお盆の数日帰省
しただけだった。

しかし、逝去の衝撃は、長く尾を引いた。
「親が、この世からいなくなる」という意味
が実感できなかつたからだ。

正直、その現実を初めて冷静に受け入れら
れたのは、今年4月末に行われた10年祭の
法事（神道方式）を終えてからだ。

すべての方々にとって母は無条件に偉大で
あるように、私の母も偉大だった。いつか仕
事からリタイアしたら、その足跡をたどり、
小説に書いてみたいとさえ思う。

いつも働き、誰かを助けていた人



日本がまだ貧しかった昭
和30～40年代初頭に、
普通の勤労者家庭ながら、

両親は息子3人全員を大学に進学させてくれ
た。（上写真）

当然、教育費がかさむ。主婦業の傍ら、若
い時期に習得した日本刺繍を内職として母は



必死に家計を支えた。毎日徹夜
で仕事する母の姿を今でも鮮明
に覚えている。当時の校長先生

並みの収入があったらしい。

さらに、75歳にして大作に挑
み、大きな美術展で入選した（右）



それだけでも凄いのだが、さらに普通の人
ではないと思えるのが「いつも誰かを助けて
いた」という事実だ。

実際、私の実家にはイソウロウのような他
人が時々住んでいたし、無償の婚活仲人で沢
山のカップルを誕生させた。

ために、自宅はいつも人の出入りが絶えず、
「騒々しい」とよく母に文句を言った記憶が
ある。晩年には民生委員を引き受け、最後ま
で地域に貢献した。

還暦を過ぎて、私が「ビジネス・マッチン
グ」という地味で根気のいる顧問業に携わる
ことになったのも、ひとえに母の影響と思え
てならない。